



東小だより

ともに伸びる 元気な子ども since 2018

新発田市立東小学校

令和8年7月24日

令和8年度 第4号

<http://higashi-e.shibata.ed.jp/>

誰のために

校長 五十嵐 潤



世界中を熱くしていたサッカーワールドカップが幕を閉じました。日本代表は強豪ブラジルに惜しくも敗れました。最後の最後まで勝利を信じて走り抜く姿に、多くの人が胸を打たれました。ワールドカップの試合を見ながら、ふとこんなことを思いました。

「選手たちは、誰のために戦っているのだろう。」

もちろん、自分自身の夢や目標もあるでしょう。しかし、それだけでは、あれほど苦しい場面で体を張り続けることはできません。想像を絶するプレッシャーがワンプレーワンプレーで瞬時に襲いかかっているはずです。仲間のため、支えてくれた人のため、日本中で応援してくれる人のため。「誰かのため」という思いが、一歩先の力を生み出していたように感じました。

毎朝、登校してくると、何よりもまず先に、玄関にある花に水をあげてくれる子がいます。東小学校では、春からずっと美しい花が咲き続けます。こんなに長く咲き続けているのは、東小学校だけですと業者の方から言われました。誰かに頼まれたわけではありません。誰かに見てもらうためでもありません。「花を元気にしたい」そんな純粋な思いで、自分の時間と力を注いでくれる優しさが、花たちの命を今日まで繋いでくれているのです。



「エゴシステム」と「エコシステム」という見方があります。「エゴシステム」とは、「自分が褒められたい」という自分のための力です。「エコシステム」とは、例えば「誰かの役に立ちたい」という自分の力を誰かのために使う力です。毎朝、花に水をあげる子には、この「エコシステム」の心（誰かのために自分の力を使う心）が育っているのだと思います。

花は、その子に「ありがとう」とは言いません。それでも、その子は水をあげ続けます。その思い、行動は、学校に潤いを与え、周りの人の心まで温かくしてくれます。

もし日本代表の選手たちが、自分の名声や利益（エゴ）のためだけにプレーしていたなら、あの状況の中で、プレッシャーに勝ち続けることはできなかったはずです。「チームのために」「応援してくれる人のために」という、自分以外の誰かを思う強い心があったからこそ、日本中を感動させることができたのではないのでしょうか。

わたしたちが子どもたちに身に付けてほしい力は、学力だけではありません。

「自分の力を、誰のために使うか」

そう考え、行動できる心です。そのような心を大切に育むことが、子どもたちの学力や人間力を育て、温かな学校づくりにつながると信じ、これからも日々の歩みを支えてまいります。